

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第5回 理事会

日 時：2014年 5月 28日(水) 19:00~1:00

場 所：コンセーレ バンケットホール

出席者：

- (理 事 長) : 村上(敬称省略 以下同)
(直 前 理 事 長) : 福田(治)
(顧 問) : 山本
(副 理 事 長) : 朝田、木村(英)、福田(智)、小瀧
(専 務 理 事) : 中島(崇)
(監 事) : 黒川、澤畑、飯野
(担 当 常 任 理 事) : 林、金
(全国大会招致会議議長) : 羽石
(会員拡大会議議長) : 太城
(協働連携特別会議議長) : 篠崎(達)
(法令会計審査会議議長) : 廣田
(委 員 長) : 飯沼、豊崎、鈴木(善)、中島(晴)、相馬、鈴木、
木村(武)
(副 議 長) : 宮林、渡邊、安野、篠原(代理)、高松、山田、福田(弘)、
八木
(理 事) : 船見、青木、横島、相田(代理)、岡田、南原(代理)
斉藤

1. 開会宣言 <中島(崇)> (役職名省略 以下同)
2. JCI クリード唱和 <山田>
3. JCI ミッション並びに JCI ビジョン唱和 <高松>
4. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和 <船見>
5. 関東地区宣言唱和 <横島>
6. 出席者の確認 <飯沼>
出席理事名 31 / 33名
7. 議事録作成成人並びに議事録署名人の指名
議事録：<総務委員会>
議事録署名人：村 上 正 高
黒 川 崇
澤 畑 敦 史
飯 野 貴 道
8. 前回議事録の確認 <中島(崇)>
9. 議題並びに資料の確認 <飯沼>

わんぱく相撲が終わったというところで、相馬委員長をはじめメンバーの皆様本当にありがとうございました。素晴らしいわんぱく相撲になったと思います。そして本日も当たり前のようにはっきりとした設営をしてくれた総務委員会の皆様、本当にありがとうございます。おかげさまで本日もはっきりとした会議を進められると思います。

前回の理事会から様々な事業がありましたので、少しお話をさせていただきたいと思いますが、まずは出向者が活躍してくれている場を目にすることが多くなってきているわけですが、まず関東地区協議会の関東地区フォーラムが東京で開催されました。これは参加していただいたメンバーは本当に感じていただいていると思いますが、本当に素晴らしいフォーラムでありました。会長を輩出しているというところで、我々も動員という意味では応援の意味を含めまして、日ごろ皆様方をお願いをして多くの人数で参加をするわけですが、フォーラムに出ることによって我々の意識がしっかりと変わり、そして知識がつく、学ぶところがしっかりとおさえられたフォーラムでありました。日本J Cのサマーコンファレンス等々でもそうですが、本当に今年、関東地区フォーラム、これはもちろん設営していただいた関東地区委員会、そして関東地区それぞれから出向しているメンバーが協議をして役員会でしっかりと形を作ったからこそ、集まってきたメンバーがしっかりと意識を変革できる素晴らしいフォーラムになったのだと思います。いかなかったメンバーにも本当に伝えたいと思いました。行かないと伝わらないのでこれからもこういったフォーラム等々は是非、調べて参加して欲しいなと思います。

そして連休直前になりますけれど、栃木ブロック、こちらは高松副会長をはじめ多くのメンバーをブロックに輩出していますけれど、憲法タウンミーティングが開催されました。我々ももちろんこの宇都宮の地で活動しているわけですが、我々は日本人でありますので、もちろんこの国の基本的なことは当たり前のようには知っておかなくてはならないと思いますし、まして憲法についてはメディア等でも騒がれているとおりに国が今注目をされているところでもあります。ここはしっかりと国民として是非、一人ひとり無関心にならずに自分の意見をもっといただきたいと思います。日本人として憲法がどうあるべきなのか、これは自分たち一人ひとりがしっかりと意見をもちそれをいろんな人と話し合えるというベースというのは、J Cメンバーなら持っていなければいけないと思いますので、日ごろからそういった問題に対してもしっかりと学ぶようにアンテナを張っていただきたいと思います。

先月、ハワイにて木村委員長に尽力いただいた事業が成功したわけですが、さっそくその効果といいますか、2012年のホノルルチャイニーズの理事長を務められましたクリステル歴代理事長が宇都宮の方に遊びに来てくれました。連休中に家族で日本を訪れたということですが、是非シスターJ Cである宇都宮に来たいということで、私も日光の方にアテンドさせていただきましたけれど、非常に素晴らしい交流が継続して持てたというのは素晴らしいことです。先月ハワイに行きまして本当に良かったと思います。これぞJ Cの友情でありますから、フェイスブックのページもできておりますので、是非皆様もしっかりと交流をしていただきたいと思います。

また出向者といえば金常任もそうなのですが、赤松君が日本J Cの国際グループの委員長をしているということで、ちょうどエリア会議があります。J C Iは4つのエリアにわかれていましてそれぞれ諸大会というものがあるのですが、エリアBに所属している我々日本J Cのそのエリア会議というものがAS PACであります。赤松委員長、金常任をはじめとするメンバーはそれ以外のエリア会議、アフリカ、中東であったり、アメリカ、そしてヨーロッパ、これにそれぞれ行っております。私も去年すべてのエリア会議に出席したのですが、移動だけでも本当に大変だと思います。それ以上に、みたり聞いたり交流をしたりして体感をする素晴らしい機会を持てるわけですが、本当に日本人のファンを作るといって日本J Cの目標をしっかりと推進していることに対して、宇都宮メンバーとして本当に誇りに思うとともに、まだ半年ありますので引き続き頑張りたいと思います。そして、LOMのメンバーにも国際の素晴らしさをフィードバックする機会を、是非作って

ただきたいなと感じております。

そしてこれは是非皆さんに伝えておかないといけないなと思っているのですが、いま木村委員長をはじめとする地域交流委員会の皆さんで、だて J C の皆さんとの交流を続けています。これはもちろん所信にも書かせていただいておりますけれど、震災のことを我々は風化させてはいけないというスタンスであります。木村委員長は伝え下手というところもありますので、なかなか皆さん委員会の担いの方で伝わっていないかと思うのですが、本当にまめに福島の方に足を運んでいただいております。これからともに活動していくということで、今あちらの委員会の皆さんと色々な話し合いをもちどうやって、この伊達の街をよくしていこうか、復興していこうかのご尽力をさせていただいております。これはもちろん拡大と同じで委員会単独の担いではありません。これは宇都宮 J C 全体で行うところのその窓口といえますか、担当しているところが拡大であったり、地域交流であったりという委員会でありますので、是非皆さんには本当に協力をしていただいて、特に委員長の皆さんは委員会の皆さんにお伝えしていただきたいと思っています。

そしていよいよ A S P A C が来週に迫ってまいりました。もちろん例会としての位置づけとして参加するということもありますけれども、これだけはぜひ忘れていただきたくないと思っていますのは、今もお話しした復興という部分であります。山形はもちろん東北にあります。我々は 2011 年に東日本大震災が起きてから世界中の国、特にアジアの国に非常に助けていただいたわけでありまして。特に台湾では、震災直後から、物資の面でもお金の面でも非常に支援をいただいております。

台湾のパソコンメーカーのパソコンの中身を分解すると、日本の復興をお祈りしますとメッセージが書かれていると聞いたことがある位、台湾の人たちは本当に日本人のことを非常に好きでいてくれて、震災の支援をしてくれた国でもありますし、もちろん他のアジアの国もそうであります。今回タイミングよく山形で行われるというのは、日本全体で行われる A S P A C の大会という意味でもあります。我々はもちろん復興道半ばではありますけれども、我々が日本人として山形の地に一人でも多く集まって、日本はしっかりと復興の歩みを進めているということを世界中、特にアジアの J C I の仲間に感謝の気持ちをとともに伝えるよい機会ということもあります。もちろん J C の国際に触れるいい機会なのではありますけれども、日本人として世界に我々の元気よさ、感謝の気持ちをお伝えできる機会になりますので、一人でも多くのメンバーを連れてきていただきたいと思っておりますし、委員長の皆さんにはこういったことをメンバーの皆さんに伝えていただきたいと思っています。それが J C の良さ、日本人の代表という位置づけも J C にはありますので、是非宜しくお願い致します。

最後になりますが、今日所信を置かせていただいております。専務のお計らいの部分もあるのですが、さきほど今更所信がなんで置いてあるのなんて話も少し聞こえたのですが、今日読み合わせさせていただくことになると思いますが、半年が経過をするタイミングで今一度、所信を振り返っていただくと、きっと少し感じ方が違うと思うのです。忘れていたことというのも多分あると思っておりますし、予定者の時は自分の担当の所ばかり読んでいたと思っておりますが、今になると全体の意味がしっかりとわかってくると思っておりますし、また後半戦の事業がぶれないためにも、今一度この所信を振り返っていただきたいと思っています。たくさん協議、審議がある中で、この所信と長い時間となってしまうかもしれませんが、スムーズな進行にご協力いただきながら本日も理事会を進めていきたいと思っております。

1 1. 直前理事長挨拶

< 福田 (治) >

まずは理事会にお集まりいただきありがとうございます。しかしながら空席が若干目立つところもありますし、大切な時期でもあります。そして事務局長が代理出席というところも意味がわかりませんので、お伝えいただければと思います。またセレモニーですが、もう 5 月です。150 人のうちのトップ 30 人が集まってやる理事会であれば、覚えてないのはい

いとしてもわからないように見ながらやるとか、セレモニーが頭に入っていない人が多いですよ。150人のうちのトップ30人ですので頭に入っているのが当然ですので宜しく願いいたします。

また、この間の公開委員会の懇親会の時に気付いたのですが、拡大委員会は受け入れの場所ですよ。毎回、篠原委員が司会をしますけれど、この前は外部の川端君をお呼びして懇親会を設営していたけれど、途中で川端さんに乾杯をお願いしようとか、締め挨拶を川端さんをお願いしようとかありましたけれど普通はないですよ。そこに専務経験者が2人揃っていてそのまもないと思いますし、前から気になっていたのは僕を紹介するときに必ず、それでは乾杯は直前というのですよ、そうやって紹介するのは拡大だけです。是非その辺を、受け入れる立場ですのでしっかりと指導していかないとなりません。この前からいい動きができていますので、それは拡大委員会にいいましたけれど拡大だけじゃないと思いますので、是非とも議長・委員長はそれぞれご自分の委員会ができていますかしっかりと振り返っていただければと思います。

今日はこちらの紙が配ってありますが、拡大についてもともとのお話させていただこうと思っておりました。今年もたくさんビジターが来ています。でもなかなか結果が出ていないのが現実であります。それは拡大会議に任せきりなのか、それとも皆さんが一つになってできていないのか、色々理由はあるかもしれません。でも担当している拡大が必死にやっているのは事実。ただ連れてこられる方はそれぞれいますよね、僕が何をいいたいのかというと、どのような言葉でどのような気持ちでビジターさんを口説いているのか、この理事会構成メンバーに一人ひとり聞きたいぐらいです。時間がなくて聞きませんが、どういう気持ちなのか、山田さんどうですか。出向が忙しすぎてそれどころじゃないですか、JCはどうゆうところだよと口説きますか。言葉はすらすら出てきますよね。でもけなしているわけではない。それは普段の修嗣君なのですよ。いつでもそういうことが出てくる。他の人からみても職業柄でしょうが、まず伝えてほしいのは、ただただそのお仕事をしているだけでは体験できないことをしていますよね。それはそうであって、JCのおかげで今の自分があるという方もたくさんいると思います。私自身もJCに入らなかったら今の自分はまったくないと思っていますし、今のJCは役職が来るにつれて、会社でトラブルがあったり、その他トラブルがあったりと重なる人が沢山いると思うのですよね。僕の場合先輩方に上手に使っていただいたので、色々な役職をやらせていただきながら訴訟が3ついつぺんに来たり、裁判ですよ、普通だったら考えられないですよ。僕は法廷に立つとかテレビの中だけの話であって自便の身に降りかかってくるなんてこれっぽっちも思ってなかったです。この現実が今の時代その辺に転がっている、そういった時でもメンバー、たとえば弁護士の先生はだれに頼んだ方がいいのかなんてわからない、この人とこの人は地元のつながりで仲がいい先生なので頼めないよねとかいろいろなことがあります。そういった時にJCのメンバーの人に相談すると的確な先生を紹介してくれたりだとか、そういったことがすごくあります。僕もそのおかげで地裁から高裁を経て、高裁で調停不調だったので地裁では100対0で勝ちました。高裁では調停不調なので終わりなのですが最高裁に上告されました。上告棄却で完全勝利を収めることができました。それは、本当にこのJCで出会った同志から紹介された先生のおかげだし、普通の裁判ならこの裁判勝てないよ。その気持ちで望めというところまでいってくれます。裁判やっているのに負けるかもしれないなんて普通はいいません。この勝負は多分負けるかもしれない、でも先生は紹介する。そのかわり頑張ってください。そこまで寄り添ってくれる仲間がここにはできる。それをどのように伝えればいいかわからない。僕もビジターさんが来た時や入ったばかりの人に話をするのをよく聞いたことがある方はたくさんいるとは思いますが、それだけのかげがえのない場所だということ、せめてこの理事会構成メンバーの皆さんにはわかって欲しい。そしてそれを皆さんの一人ひとりの言葉で、JCに入ろうか迷っている人、JCってどういうところなのだろうと思っている人たちに語り掛けていただきたい。そうすればもちろん拡大の人数も増えるし、JCが増えれば宇都宮の街もよくなっていくはずであります。なかなか抽象的な話でわからないとは思いますが、僕の体験の基でいっているのが当たっているはずですよ。それはJCが素晴らしい団体だということが、

皆さん自身も少なからずわかっていると思います。是非そのことを心に熱く置いていただいで、事業、メンバー、新しい新人を口説く時も本気で当たっていただきたい、よろしいでしょうか。

本日いろいろ詰まっています。今日の理事会も素晴らしい理事会になりますことを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきますと思います。われわれ一人ひとりが宇都宮そのものである。本日もどうもありがとうございます。

顧問並びに公益社団法人日本青年会議所関東地区協議会第60代会長挨拶 <山本>

議長・委員長の皆さん大丈夫ですか。元気ですか。今委員会中に一生懸命やっているメンバーが頭にすぐ浮かびますか。来ていないメンバーすぐに頭に浮かびますか。このメンバーいるけど心ここにあらず思っていないませんか。来ていないけれど自分の委員会を常に気にしているメンバーがいるということを確認していますか。あなたたちは委員長で理事であります。直前の挨拶でもありましたが、理事としてセレモニーを元気にやる、こんなの理事として当たり前のことです。拡大に対してどういうことが拡大に必要なのかをこたえられるのも理事として当たり前のことです。これはハードの部分、委員長としてはソフトの部分こちらにも必要です。委員会メンバーの心をしっかりと掴んでいただきたいと思います。この前のように途中、中座してしまいましたがわんぱく相撲のような例会ができるのだと思います。ジッターは今、拡大に少しゆっくりなペースで来ているかもしれないけれど、しっかりと形は残しています。ここからですからね、5月、6月事業で皆さん疲れてくるのですよ。委員長も理事のメンバーもみんな疲れてきます。でもここで踏ん張るのはこの理事会メンバー一人ひとりですからね。公務がある、怪我をした、また体調不良で出られない人もいるかもしれない。でもしっかりとつなぎとめる。これが委員長の皆さんのお役目です。150名のLOMですからそう簡単に纏めることなんてできないですよ。でも僕らはやってきているのです。それはなぜか、委員長・議長のみんが2014年、宇都宮JCの歴史であります。これをしっかりと2014年度村上理事長率います理事会構成メンバー一人ひとりが自覚をもって宇都宮JCを率いていただきたいと思います。そしてハードの面があるなら、ソフトの部分は何か、われわれは運動体であります。どんな運動をするのか、宇都宮にインパクトを与える最良の市民を作るための運動を発信する。これが我々宇都宮JC、2014年誰もが答えられるものであります。そのためには何を見なければいけないのか、議案書の背景でございます。その背景を皆さんしっかりとみていますか、委員会メンバーにお伝えできていますか、人と人との事業、一つひとつの運動はこの背景から始まっています。3つです。この一つの事業、議案が今の時代にちゃんとあっているのか、これをよくみて背景を書いてください。いいですか、運動、事業が時代に合っているか、これは今までやったことがある運動、事業の検証も含めての時代背景にあっているかをみてください。そして2つ目、これはJCとして我々は青年であります。あらゆるものに挑戦した。挑戦というにニュアンスが入っているのか、これをしっかりと見極めてください。挑戦。挑戦です。われわれは青年ですからね。そして完成系が完璧なものなんて求めていないのです。如何にわれわれ青年として挑戦しているかというところを、是非とも背景に加えてください。そして書き込むの、書き込むのは目的で、背景ではないですからね。そしてゴールがちゃんと見えているか、このゴールもしっかりと書いてしまうと目的になってしまいますが、しっかりとそのゴール像がしっかりと見えているか、これが宇都宮市にどんなインパクトを与えているのか、そしてどのような子どもたちを作りたいのか、どのような宇都宮の市民を作りたいのか、そのゴールがきちんと見えているのか、これを見極めてください。この3つをはっきりと理事会構成メンバー一人ひとりが自覚をしていただけたらと思います。これが私はJCだと思っています。全国には696のLOMがあります。関東地区には158のLOMがあります。いろんなLOM、いろんな理事長、いろんなメンバーにお会いします。その中で宇都宮JCって元気があっていいですよと必ずいついていただいております。それはなぜか、この理事会構成

メンバーがLOMで、地元でしっかりと活動しているから、それが我々関東地区にも伝わってきているし、日本全国に伝わっているわけでございます。そんな気概と自覚を持っていただきまして、今日の理事会も有意義になりますことをご祈念いたしましてご挨拶に代えます、宜しくお願いします。

12. 役員報告

- <安野> 5月31日に開催されますセミナーに多くのご登録をいただきありがとうございます。当日10時から開催しますので宜しくお願いします。
- <相馬> 先日はわんぱく相撲宇都宮場所にたくさんの方々に参加していただきありがとうございます。設営等少し問題もありましたが、メンバーの皆様のおかげで無事成功することができたと思っております。先週の金曜日に4年生から6年生の優勝者ととちぎTVに生放送出演させていただきました。こちらも今年はじめの試みで、優勝者や保護者の方にも喜んでいただきよかったと思っております。
- <宮林> 7月に県の監査を予定しています。理事の皆様にはご協力いただくとお思いますので宜しくお願いします。4月の法令会計例会ですが、皆様のご協力をいただきまして無事に終わることができました。
- <金> 宮まつり案件としてご報告させていただきます。ふるさと宮まつり開催委員会の実行本部連絡会議が6月9日19時より市役所14階の大会議場で行われます。毎年19時に集まりが悪いと報告がありますので、理事会構成メンバー、委員会の出向者は19時スタートを念頭に置きお集りください。
- <篠崎(達)> 協働連携特別会議からJCI NOTHING BUT NETSキャンペーンの件になりますが、前回理事会で自動販売機設置の件をお伝えしましたが、その後コンサーレ側と交渉し、そのような設置であれば認めていただけることでした。コカ・コーラさんの方から電力に関してはコンサーレ側に支払ってもらい、利益分を募金として全額募金していただくということでお話をしました。設置については調整しますので、終わりましたらご報告します。
- <中島(崇)> 今週末の6月1日11時より鬼怒川緑地運動公園で正副メンバープレゼンツのバーベキューを行いますので是非、足をお運びいただければと思います。5月15日の朝、事務局の中に吸い殻の入った空き缶がございました。追及はしませんが、事務局内で喫煙しているようだと言今後事務局開局時間以降の使用が不可能になります。産業会館としてのルールがありますので、必ず、議長・委員長の皆様が管理をし、喫煙所以外での喫煙がないようにお願いします。

2014年度 理事長所信(案)について

冒頭

【はじめに】

【世界とのつながり】

【JCは学び舎である】

【市民が主役のまちへ】

<村上>

<飯沼>

<豊崎>

<安野>

<中島(一)>

【市民意識の変革】	<船見>
【共助の精神】	<木村(武)>
【真の「公」をめざすために】	<八木>
【市民の信頼と社会の負託に応え得る組織】	<宮林>
【未来への希望】	<福田(弘)>
【結びに】	<相馬>

※上記を熟読致しました。

13. 審議事項

審-01 3月例会 全国大会招致セミナー 開催報告並びに決算(案)承認の件

審議資料に基づき、山田副議長より上程文の読み上げ。

<村上> 羽石議長補足ございますか。

<羽石> 該当に関しまして反省しています。次回気を付けます。

<村上> 廣田議長コメントをお願いします。

<廣田> 特段ございません。

<村上> 飯沼委員長フォーマットは大丈夫ですか。

<飯沼> 特段ございません。

<木村(武)> アンケート回収率が49%。全国大会は目の前にありとても重要なことだと思います。一般の方を入れてのアンケートなら仕方ないと思いますが、メンバーが93人で90%位を占めているのですから、後からでもアンケートを取った方がいいのではないのでしょうか。

<山田> アンケートの回収率が低い点についてはいくつか問題点がありました。意見と対応の所にも書いてありますが、最後に回収して帰ってもらうという形でしたが、実際には終わった人から回収し帰ってもらう手法もあったのではと思います。また実際に出席した人数と会場にいた人数は違いまして、相対的にアンケートの回収率が下がってしまったのだと思います。無記名なので誰が未提出者かわかりませんし、本日審議ですのでこのまま審議上程させていただきます。また、アンケートだけではなくてもその後も委員会まわりをしまして、委員会メンバーの生の声、メリットデメリット等をこの議案に添付したいと思います。そういった点すべてを加味してもらいたいと思います。

<村上> 木村委員長がいつてくれたことはとても重要です。この事業は本日審議を受けるわけですが、委員会の担いとしては1年間しっかりと進めていくところなので、今の意見を参考にし、最後まで委員会として頑張ってください。

【採決】 全会一致 審議可決

審一 3 6月事業 全国大会関連事業 開催計画並びに予算（案）承認の件

審議資料に基づき、福田副議長より上程文の読み上げ。

- <村上> 羽石議長補足お願いします。
- <羽石> ポスターの事務局開催時間の9時を、10時に訂正します。
- <村上> 廣田議長足コメントお願いします。
- <廣田> 財政時にTMマークを見落としてしまい、本日、審議前に修正を確認しました。私どもの確認ミスで申しわけありませんでした。TMマークを正規の位置に戻したとして、慎重なご審議、宜しくお願いします。
- <村上> 飯沼委員長コメントお願いします。
- <飯沼> 特段ございません。
- <太城> 参考資料の新聞広告掲載イメージ、フェイスブック投稿内容、こちら目に触れるものなので審議対象資料にした方がいいのではないのでしょうか。
- <福田(弘)> 新聞広告掲載については審議対象資料に変更いたします。フェイスブック投稿内容についてはできるだけ最新の情報を掲載したいと思います。審議対象資料に掲載しますが内容はそのようにさせていただきます。
- <村上> イメージではないということですか。
- <福田(弘)> 新聞広告に関しましては、お手元にあるものが確定イメージになります。
- <村上> それを審議対象資料に入れるということですね。
- <木村(武)> 担当割の担当については後ほど委員会で説明していただけるのですか。担当の中に時間外は警備をお願いしますと書いてありますが、警備の担当がそもそもいません。
- <福田(弘)> 選任警備はいませんが、僕ら担当委員会が要所について近くにいるJCメンバーに指示を出すということです。
- <木村(武)> 委員会まわりの際に、最近暖かくなりうちの子どものいる小学校にも熊がでたようで、その他色々な事件が起きているのでイベント時間内にどのような警備をするのか伝えた方がいいと思います。
- <福田(弘)> 委員会資料を作り対応いたします。

<鈴木(善)>自分自身を追想するとはどういうことですか、この街の素晴らしさ、地域らしさを再確認し、地域への帰属意識を醸成するとはどの部分なのかを教えてください。

<福田(弘)>追想するというのは、宇都宮市民が宇都宮についてまだ知らないことがあるのではないかと、事業をつうじて色々なブースが出ていますので、そちらの方で今自分が住んでいる街を再確認してもらおうという仕掛けがあります。

<村上> 鈴木委員長がいったかったのは、色々なブースの催しがありますが、その中でも自分自身を追想するのはどのブースのどのファンクションなのか、そしてこの街の素晴らしさ地域らしさを再確認するのはどのブースのどの催しなのか、地域への帰属意識を醸成することとはどの部分なのかというのを聞いていたのだと思います。今の答えだとあまり答えになっていません。

<福田(弘)>たとえば二荒山神社の講話を設けています。普段生活している中で忘れられている先人たちの築きあげてきたことを、講話をつうじ思い出していただきたいです。宇都宮に住んでいない人には新しいものになりますが、思い出していただくことが追想になります。

<村上> 今の話しは対外目的を話していると思います。

<福田(弘)>本事業に関しましては、我々も一市民です。皆さまにもそれを思い出していただきたいです。

<鈴木(善)>宮まつりと同じ感覚なので、一緒に頑張っていければいいと思います。

<岡田> ビジター案内文もポスターと同じく事務局開催時間が間違っているので訂正してください。

<福田(弘)>訂正します。

<太城> セレモニータイスケですが、今日認証されれば2人の新入会員がいます。本来は認証式を例会でやるのですが、時間の都合上ここでやらせてもらいますのでタイスケに入れてください。

<中島(崇)>通常であれば例会で認証ですが、例会が前半に行われているので、後半の事業で認証式をするのは問題ないと思います。対応をお願いします。

<青木> 8月から消防条例が厳しくなったので、各ブースに消火器を置くのを促した方がいいかと思います。

【採決】 全会一致 審議可決

<羽石> 意気込みですが、まずは皆様ラ・バンバの意味をご存知でしょうか。村上理事長に教えていただいたのですが、スペイン語で揺らめくという意味です。揺らめくというとネガティブなイメージをもたれるかと思います。しかしここにいる宇都宮J Cのメンバーは、宇都宮市民なのです。そのことに対して何も変わ

ることではないし、今この当たり前に過ぎている日常は、先人たちからの恩恵があり、続いてきたことであり、当たり前のように生活ができると感じております。この事業がどこにつながるかは、皆さんそれぞれ思っていたきたいのですが、宇都宮という町は二荒の森を中心にできているすごく歴史がある街です。他の主要都市と比べても遜色ない歴史がある街だと感じております。お越しになっていただいた方々が、すべてを知ることはできませんが、このラ・バンバに来たことにより、本当にいい街なのだと感じ、好きになって欲しいという思いがすべての始まりであります。その気持ちが全国大会招致関連事業となり、その気持ちが全国大会招致になると思います。そのために宇都宮市民の意識を変えていくということを含めラ・バンバを開催させていただきたいと思います。あと1か月となりましたが、各会議・委員会の皆さまには参加動員のご協力や色々なお願いをしたいと思いますし、良い事業にするためにアドバイスもいただきたいです。これからがスタートなのでみなさんご協力よろしく申し上げます。

審-4 9月例会 第4回宇都宮ストリートダンス選手権 告知計画並びに予算(案)承認の件

審議資料に基づき、岡田副委員長より上程文の読み上げ。

<村上> 林常任補足ございますか。

<林> 特段ございません。

<村上> 廣田議長補足ございますか。

<廣田> 第6回の法令審査時にポスターバナーの始まりを確認しまして、6月審議の7月からと回答いただいたのですがバナーが入っています。間違いですか。

<岡田> 間違いです。

<村上> 飯沼委員長コメントをお願いします

<飯沼> 特段ございません。

<村上> 全体的に誤字、フォーマット違いが多すぎます、専務をはじめ副理事長が議案を確認しているなのでその辺を徹底してください。総務委員会も次回から誤字などがアップする時点であつたら上程させないでください。

【採決】 全会一致 審議可決

1.4. 協議事項

協-01 7月例会 会員スキルアップ例会開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、安野副議長より上程文の読み上げ。

- <中島(崇)>案内文に事業内容がないので何をやるのかを載せてください。また、案内文の中が背景と同じようになっているのでもう一度精査してください。具体的には背景の中にあるメンバー一人ひとりが何のためにJC活動をしているのかを見失ってしまいました。LOMの現状として新しいメンバーが増えてきたという現状を伝えていきたいと表現されているのですが、何も根拠がない。JC活動をしている意味を見失っているわけではないと思うのでこちらの文言を精査してください。会場レイアウトですが工夫の中に番号札を配ると記載があります。席をシャッフルするという意味での配るという意味だとは思いますが、会場レイアウトの中には表記されていません。このテーブルはAだとか、Bだとか細かく表記してください。アンケートでどのように検証するかと議案に書かれていますが、実際には表記1だけで検証するアンケートだと思います。トレーナーがどうだったかのアンケートが多いので、1つだけで検証できるのかを踏まえて、もう少しアンケートを精査してください。
- <八木> 選定した理由の中に、JCのプログラムの中にはビジターさんが参加できるとできないがあると思いますが、JAPANプライドがビジターも呼べるものなのか確認です。そのほかのJC推奨プログラム、公式プログラムと比較をしたご意見をお聞かせください。
- <安野> ビジターさんが参加できるかは確認していませんでした。例会ですのでビジターさんが参加できるのかを講師に確認いたします。一つ案が上がったのは、31日に開かれる3セットのプログラムを検討したのですが、時間を短くできなかったのでできませんでした。宇都宮JC以外で、様々なプログラムを実施されています。JAPANプライド自体年間20回位開催していますが、関東近辺ではあまり開催していないので選定しました。
- <八木> JCの3セミナーはメンバーしか受けられないと思います。宇都宮の所信にあったものもあるとは思いますが確認してください。
- <福田(弘)>当初ビジネス系の事業でしたが自己啓発につなげていく事業でよろしいですか。
- <安野> そのとおりです。
- <鈴木(善)>参加動員計画にフェイスブック、LINEと掲載されていますが、入っているメンバーも入っていないメンバーもいますので手法としては削除したほうが良いと思います。
- <安野> 委員会で検討します。
- <横島> 予算のピックアップ演出にコピー用紙1000枚と書かれていますが、これは用紙しか使わないのですか、コピー代は含まれていませんが。
- <安野> JAPANプライドで各グループごとに紙を置いといてほしいと指示がありました。そちらの代金を計上させていただきました。

- <宮林> 事業目的の、誰のために、何のためにJ C活動をしているのかが大きな目的なのかと思いますが、事業内容のスケジュールのところの自己の存在意義ですか、誇りを持つというのが出てくるのですけれど、プログラムの内容として、個人を掘り下げていくような内容になっているとは思いますが、J Cについて誇りを持つとJ C活動が何のためになるのかとはどう結びついてくるのかわからないので質問いたします。
- <安野> 内容に触れるところですが、J C活動するにあたり、自分が行動する地域を愛していないと活動ができない。そういうところの意識を喚起するためのプログラムになっています。一人一人の意識を喚起するために例会を開催します。
- <宮林> 国に対して愛着が出て気付きをえると、J C活動は何のためにしているのか見えてくるのでしょうか。
- <安野> こちらとしては、それを期待しています。
- <宮林> そのあたりの関連性がわかるようにしてください。
- <渡邊> 検証はどのようにしますか。
- <安野> 委員会のほうで反映できるよう検討いたします。
- <小瀧> 理事長所信のどの部分をとって例会内容にしたのですか。
- <安野> J CにはメンバーのスキルアップやLOMの有益なプログラムが数多く準備されておりそこを反映いたしました。素晴らしいプログラムをしようと考えました。
- <村上> 若干違和感が2点ほどあります。八木副義長や小瀧副理事長がいつてくれた部分ですが、プログラム選定理由にも書いてありますが、インパクト・アチーブ・アドミンと書いてある3コースを参加者を集めてやるわけですよ。それを例会でやる意味、例会の大切さ、例会の位置づけ、重みとかどういう風に考えているのか違和感があります。所信の話をしてきましたが、表面的すぎです。その部分だけをとって日本J Cのプログラムからどれか選ばばいいのだというような表面的な意味で選んでいるように見えてしまいます。もしかしたらもっと深い意味があるのかもしれませんが、深い意味があるのならば議案で表現してほしいし上程してほしいと思いますので、来月までに委員会揉んでください。いずれにしてもメンバーの例会ですのでおさえてきてください。

協一〇二 第110回通常総会 開催計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、飯沼委員長より上程文の読み上げ。

- <高松> 会場についてですが、総会はイベントではありません。会員がしっかり参加し最高意思決定をする機関だと思うのですが、これをなぜわざわざ大谷でやるの

か、正副の意見でも出ていますが会場内が8℃なので上着を持ってくるとかブランケットを用意するとか、総会なので、一番大事なのはメンバーが参加することと、しっかりと審議をすることだと思います。皆さんに来てもらうために、8時からにすることはいいと思いますが、そもそも会場をここですることがおかしいのではないかと思います。どんな経緯でそこに至ったのですか、荘厳な、そんな文言がありました、我々はビジターや新入会員に総会とは何だというものを説明しなければなりませんのでその辺を教えてください。

<飯沼>

総会の目的は事業目的のとおり、厳かにメンバーの総意をえて決議を取る事だと認識しています。今回の立地という面については、その事業目的そのものにリスクを与えかねないということも認識しています。この会場を選んだ理由は事業目的そのものの達成ではありませんが、副次的な効果が大きいと考えます。その効果は大きく2つあり1つ目は対外的な部分です。地域と共にという所をスローガンに掲げる団体はたくさんありますが、大切なのはその説得力です。150名近くの社員を抱える公益法人が、地域の宝である大谷資料館のもとで、自らの組織の根底である総会をあえて実施し、『俺は地域とともにやってくるのだ』といったときの説得力は非常に増すのではないかと考えました。もう一つは対内的な部分です。大谷資料館行ったことある理事の方举手願います。さすがに理事会メンバーの方々はどちらかというとも多いと思います。ただこの理事会メンバーの中でも半数ぐらいだと思いますが、メンバーにも色々会う人には聞きましたが、行ったことのない人が大変多いと思います。非常に荘厳な雰囲気です。大谷資料館に行ったことのないメンバーにも地域の宝であるその大谷石、その歴史などを感じてもらいたい機会であり、地域らしさを築き、地域への帰属意識を醸成させるというようなメリットもあると思います。今回立地は遠いと思いますが、総会の同意のポイントは、総会への意識の高いメンバーは大体来てくれる確率が高いと思います。毎回の課題というのは総会に対する意識の低いメンバーに対しどのように意識を高めて行くかという所で毎年苦勞しているところだと思います。もちろん事前に総会の大切さを地道に磨き、来てもらう所も大切だと思いますが、この会場で実施することにより、総会に対して意識が低いメンバーも面白そうだな、こんな素晴らしい資源があるのだなど、会場が非常に荘厳な雰囲気なので、総会というものは自分たちがこれまで考えていた以上に威厳の高い、格式の高いものなのだと思える効果もあるのではないかと考えこの会場を選定いたしました。ただ動員の定刻開催というところにつきましては、非常に重たい問題だと思っております。ここにつきましては委員会におきまして移動時間のシュミレーションも行っており、メンバー一人ひとりに地道にこの会場の魅力を発信したりということをやりがら定刻開催も実現できると考えております。

<高松>

添付資料に移動時間と移動経路があり、そこにうちは入っていません。数日後に宮まつりが控えているのでそこでリスクをおかす必要はないのではないかと、仮にここで荘厳な雰囲気やって、若いメンバーもそれをみてこういうものだった時に、じゃあ今後ずっとそういう所でやるのかとなると思うのです。あえてその西の所でやるのはなぜかなど、やはりそこがげせません。

<飯沼>

添付資料でシュミレーションしておりますが、野高谷からスタートした所は実際にファーストコーポレーションさんからスタートしたところです。分布図にもあるように、確かに東から来られるメンバーは確かに多い中で西に移動する。負担になることは考えて、野高谷をスタートしたり、問屋町をスタートしたりとか、宇都宮駅、環状線、大谷街道に入るところでの各ポイントをどれだけ時

間が掛かるかを調査しており、移動時間、移動経路につきましてはメンバー一人ひとりに直前に連絡をして提案しクリアしていきます。それと質問にあった本質にあるところですが、リスクといえどリスクなのですが、どちらかというとそのリスクとメリットの天秤みたいな考え方ではなく、立地の部分のデメリットの部分は克服できると考えています。唯一のデメリットをしっかりと回避し、先程申し上げた大谷資料館でやる効果の方がはるかに大きいのではないかとこの会場を選定させていただきました。

<高松> 今後はそのような所でやるという考えで宜しいのでしょうか。

<中島(崇)> ラインである私からの補足ですが、ホテル丸治さんやコンセーレでやっていたのが通常だったわけですので、あらたなことのひとつだと思います。あと1クール審議をいただくまでのなかで、意見をいただき再考していくこともあるかもしれません。ただ大谷資料館でやるとなった時に、今までとは同じではなく別な会場でやってもいいのではないかという意見が出てくる。感じ方がでてくるというのも正直可能性としては否定できないと思います。ただし先程から申し上げているとおり、目的として勿論決議をとるというところからするとリスクという言葉が出てくるのも一つ考え方としてあるというのも飯沼委員長もとらえているところですので、そちらに関しては再考させていただきたいと思います。

<小瀧> 大谷でやることを前提に大谷の魅力を伝えたり、会場選定のマイナス要因を潰していると思うのですが、それを大谷ではなく普段やっている所のいいところメリットをどんどん探していけば全員来るのではないのでしょうか。大谷でやることを前提にして、みんなの来やすい方法、メンバー益を考えていただきたいと思います。意見です。

<木村(武)> 思いは伝わってきたのですが、会場をここにした時に気温の問題が発生すると思うのですが、椅子とかに座ると体感温度ってもっと下がると思うのですが、男性はももひき穿いたりしてどうにでもなるとは思いますが、女性の人には椅子の下に何か敷いてあげるとか、ブランケットをかけてひざは暖かいと思うのですが、上にはストールとかを掛けていいのかとか女性のメンバーのこと考えていただければと思います。

<太城> 常任理事会でも申し上げましたがリスクを冒すべきではない。冒険したい気持ちはわかりますが、あくまで最高意思決定機関であり、如何にメンバー意思を反映させるかが重要であって、会場が荘厳だからとかは関係ないです。対外的なところをいっていましたが、場所がそこでやるから対外の人がすごいなとは思わないと思います。100%例会出席ぐらいやったらすごいとは思いますが、逆にそっちの方をめざした方が僕はいいのではないかと思います。委任状100%回収をやり今度はメンバーが85%だとか出席を求めるような、総会なので本来は全員出てもらいたいぐらいなのですが、ちょっと趣旨が違う方向にいつているのではないかなと感じました。意見です。

<宮林> 私も総務委員会の経験があるのですが、総会の目的というのは会員のみなさまの意見を反映して、定款を従事し滞りなく終えることが一番大事なことだと思います。今回は期待される効果のところに総会の高い威厳を示すという文言が入っていると思うのですが、なぜ総会でそれを示す必要性があるのかをお聞かせください。

- <飯沼> より多くのメンバーに出席してもらうことが非常に大切だと思っております。一番大切なのは先程も申し上げましたが、まだ総会に対して意識の低いメンバーを、いかに意識を高めて総会に出席させるかというところだと思います。荘厳な雰囲気の中かで威厳を体感することで、今まで意識の低かったメンバーが俺たちの総会ってすごいなっていうふうにも思ってもらえるのではないかなと思いいその威厳を高めるというところをクローズアップさせていただきました。
- <宮林> では今回は場所を変えて、意識の低いメンバーに対して、一定の影響を与えることが目的となっているので、新しい場所でやるといった趣旨でよろしいのでしょうか。
- <飯沼> それも一つではございますが、やはり地域の宝というところに気づいていただき、地域の帰属意識を醸成するといったところも大きな目的の一つとして考えております。
- <福田(弘)> J Cの総会は伝える内容なので、予算や細かい内容を石作りの場所でやるのはマイナスの要素になってしまいますので、そのあたりを話し合ってください。それと音響状態がしっかりしているか確信してください。
- <鈴木(善)> メンバーの集まりやすい場所を考え二荒山会館はどうでしょうか。
- <木村(武)> フロアーメンバーに総会の大切さを伝えられるようなものを議案に盛り込むことが必要ではないでしょうか。
- <村上> 意識の低い人をどのように引っ張り出すか、そこに注力を注いでください。

協-03 8月 第30回わんぱく相撲全国大会 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、相馬委員長より上程文の読み上げ。

- <中島(崇)> 概要書についてなに部屋になるか記載がないです。決まり次第保護者等に地図等々案内も含めてお子様をお預かりするので、どこに宿泊するか等の概要書としてお渡しください。緊急時の対応ですが連絡系統を入れてください。
- <福田(弘)> 外部協力者についてこの事業は宇都宮 J Cの事業ですので、東京 J Cの講演という意味ですか。掲載したほうがいいのではないのでしょうか。
- <相馬> 毎年記載してあります。
- <福田(弘)> 宇都宮 J Cとして記載するべきではないのでしょうか。
- <相馬> 全国大会に関しては東京 J C主催なので、東京 J Cと記載しています。
- <福田> わかるように記載してください。

<相馬> 修正して追記します。

<鈴木(善)> わんぱく全国大会に行く議案なので必要ないと思います。

<太城> 引継ぎは陽南道場の都合なので、J Cがお金を出す意味はないのではないのでしょうか。

<相馬> 内藤さんの方から年齢が年齢なので、今年だけ3名出したいということです。予算を入れるのは検討いたします。

<鈴木(善)> 宇都宮 J Cの陽南道場の役割分担と、関係団体3名の当日の役割を教えてください。

<相馬> 引率、次の日の参加者のサポートになっております。

<鈴木(善)> 陽南道場さん3名はいらないと思います。

<山田> 予算書に振込手数料を計上してください。

<相馬> 修正いたします。

<木村(英)> 陽南道場は誰を連れてくるのですか。

<相馬> 田崎さんがきます。

<木村(英)> 田崎さんは例年実費で来ているので費用は必要ないと思います。

<山田> お弁当、全員分振り込むと思うのでその点を確認してください。

<小瀧> 概要書の両国の住所が間違っているので直してください。

<鈴木(善)> お土産の餃子ですが冷凍ですか。

<相馬> 冷凍で送料込みです。

<鈴木(善)> 例年ですと手渡しだと思います。

<黒川> 東京 J Cさんからなるべくお菓子をといわれています。ホームページにも記載されています。

<宮林> お弁当の振込手数料とは具体的にどの部分ですか。

<相馬> 予算書の間違いで雑費が振込手数料になります。訂正します。

<宮林> お弁当はどこになりますか。

<相馬> 抜けているので訂正いたします。

<宮林> 例年通信費が計上されていますが、今回はなしでいいのですか。

<相馬> 次回の法令までには調べます。

<村上> 予算の細かい話は法令でやってください。わんぱくの優勝者が決まっていますので名前を入れてあげてください。外部協力者を主催者東京J Cとのせるのはいいと思いますが、講演を載せなくてもいいと思います。乗せるのならば陽南道場を乗せるべきだと思います。泊まる場所が決まったら載せてください、子どもたちのことを考えてお土産は手で持っていてください。

協-04 9月例会 第4回宇都宮ストリートダンス選手権 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、岡田副委員長より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 外部協力者の部分ですが、富士見フラガールズですので正式名称で記載してください。案内文ですが、先々のロードマップになりますので宛先が、L O Mに送るのなら理事長宛てでお願いします。行く先々で、栃木ブロックを巻き込んで栃木全体で開催したいとなっていて、この観点で行くと栃木ブロックの協力が必要不可欠なので栃木ブロックにも出してください。宇都宮のソウルフードの出店となっていますが、何を出すかが決まったら記載し、会場図にもどこに出すか記載してください。ロードマップですが、県内L O Mの予算規模とか書いていますが県内すべてではないですよ、返答がまだもらえてないとかでしたらいつまでももらえるかなど、すべてに出しているかの情報を出してください。

<渡邊> どのように飲食ブースを出展するのか教えてください。

1 <岡田> 商店街などをまわって出店希望を聞いていきたいと思っています。

<木村(武)> 緊急対応マニュアル、担当割が手薄になっています。肉付けしてください。タバコを気を付けるようにしてください。アンケートは、参加者の子どもなのか、保護者なのか、両方なのか教えてください。

<岡田> タバコですが、委員会回りをするときには落とし込みしたいと思っています。アンケートは保護者と来場者にします。

<木村(武)> アンケートですが、参加している子どもたちにするのもいいと思います。

<福田(弘)> 笑顔プロジェクトの予算ですが、日本J Cから使った分だけ出るので予算を0円計上していると思いますが、かかる費用を乗せて、日本J Cからいただければいいと思います。

<山田> 駐車場の件ですが、車間が3メートルになってますが、間を6メートルとった方がいいと思います。

<木村(英)> 宇都宮のフラダンスチームの踊りを福島の人に踊ってもらうのですか。

- <岡田> 福島へ行きフラスクールをビデオにとり、それを宇都宮のフラチームに踊ってもらいます。
- <金> ロードマップですが、3年後に実施していただくならばもっと他の手法にしたほうが良いと思います。
- <村上> 背景をよく読んでください。地域ということを考えると、ロードマップも絡むが、参加チームの推進が小学校単位だと思います。他のLOMを巻き込む前に、小学校・中学校に広がってからのほうが良いと思います。

協-05 5月新入会員認証（案）について

協議資料に基づき、八木副議長 より上程文の読み上げ。

<中島(崇)>ターゲットフレームを変更ください。

<村上> この前の公開委員会に来たビジターの方とお話をしました。JCの魅力が伝わっている実感があります。ビジターさんが来てくれれば魅了を伝えていけると思いますので宜しくお願いします。

<八木> 特段問題ないようでしたら、審議格上げの動議をお願いいたします。

<中島(崇)>審議格上げの同義がございました。セコンドされる理事の方、右手挙手をお願いいたします。羽石議長、林常任。
全会一致審議格上げ 審議事項5番項に格上げさせていただきます。

協-6 6月例会 第64回ASPAC山形大会発信計画並びに予算（案）について

協議資料に基づき、豊崎委員長より上程文の読み上げ。

<中島(崇)>まず修正が追い付いていないところについて先にお話をさせていただきます。まず議案タイトル、こちら審議ではなく協議となります。また予算（案）承認の件というのも、こちらの協議につきまして予算（案）についてということで修正となります。それからファイル名260528Sですが、協議となりますので260528Kというかたちになります。それから本日の理事会での意見と対応の部分も審議となっておりますが、こちら協議というかたちになります。以上がフォーマットのところでございます。それから外部協力者、講師としてということでございますので、外部協力者が抜けておりますが、こちらは修正するというところで豊崎委員長よろしいでしょうか。

<豊崎> 修正します。

<中島(崇)>外部協力者として国際会議支援委員会が入ってくるということによろしいですね。

<豊崎> はい。

<鈴木(善)>講師になったのですね。そうするとこれ本当に面倒くさいことになってしまうのですが、講師の経験が十分にあるのかとかそういった問題も出てくと思います。あとは宇都宮JCのメンバーが本当にその話を聞いて、要は講師経験がない状態で話をされても駄目だと思うし、その辺の講師経験等どうなのでしょう。

<豊崎> 国際会議支援委員会さんから来ていただける方になりますが、所属しているメンバーの皆さんはAS PAC山形大会を熟知している方です。

<鈴木(善)>それで審議を取るのですか。

<中島(崇)>いいえ協議です。

<鈴木(善)>6月2日ということですが、それまでに講師を探して見つかったとして、このメンバー全員が違うだろうといったら審議はおらないわけですよね。その短期間6月2日までに講師を決めて、内約を取るわけでしょうか。

<中島(崇)>豊崎委員長、今の時点での国際会議支援委員会の打診の状況の説明を鈴木委員長へお願いいたします。

<豊崎> 国際会議支援委員会のVCの方の内約をいただいている状態でございます。

<中島(崇)>その他ご意見ご質問ございますか。

<安野> 講師にこだわらなければ、講師依頼承諾書とかなしで取れると思うのですが、こだわる理由はあるのでしょうか。

<豊崎> 先程いただきました意見のなかで、6月2日の開催日というところで、講師というかたちをとらなければ予定等の条件というものが揃いません。

<安野> 今から講師依頼承諾書を準備するのは実際厳しいと思うのですが、今日これから審議格上げされる予定ですか。こだわることはないのではないのかなと、個人的な意見で思うのですが、講師ではなくあくまでPRに来てもらう。PRというかたちにしてくまく説明してもらうようには変えられないのでしょうか。

<高松> いまの安野副議長の話しですが、講師依頼承諾書がないのですよね。そうすると審議にかけることもできないのですよね。そうするといままでやってきた人たちが何であんな苦勞をして準備をしてきたのかということになってしまい、協議だけして終わりになってしまうのです。そうすると講師になると思われる方が講師としてふさわしいのかとか、またそうゆう議論になってきてしまうので、PRとゆうかたちで来ていただいて説明していただくとゆうかたちで進めるべきではないでしょうか。

<中島(崇)> 補足です。まず関谷のりこさん、国際会議支援委員会のVCの方の内約を取っているという話しを豊崎委員長の方からしてもらっていますが、安野副議長がいうとおりPRとうかたちで行くのであれば、スケジュール、例会を6月2日に固定したうえで、そこに来てくださいというかたちで行くのがスムーズな話だと思います。講師とした理由としては、こちらは実際に話をしてもらった内容と、日付けを逆にいうとこちらが2日空いているという確認が取れたうえで、打診をしたという背景であるのであれば、講師であろうという判断をしたというところが正直なところだと思います。今回講師ということで書かせていただいているのですが、であれば、今いただいたご意見も踏まえて修正をさせていただいて、PRということで、講師依頼承諾書というのではなく、国際支援委員会がASPACの事前のガイダンスのなかで、PRの時間を30分使いより濃密なPRをしていただくということで、修正のうえ協議をしていただければと思います。

<鈴木> このなかにあります、収録映像の10万円というものがありますが、ASPACの映像を作るのですよね。もともとは報告会のために作るはずだったかと思うのですが、事前の説明会になってASPACに行きましたとなった時に、その後10万円をかけてASPACはこうだったのだと説明するためにつくのでしょうか。

<豊崎> 先程もご説明しましたが、今回のASPAC山形大会は5年に一度しか日本で開催されない大会です。前回の2009年の長野大会が近い所でありましたが、こちらの5年間の大会ですらLOMで経験した人間は少なく、情報も乏しいといったところで映像として残すことによりこの世界会議をLOMのメンバーへ伝えられる手法として残すことと、ホームページ等に載せることにより、一般の方へも伝えられるのではないかといいところです。費用対効果というところを考えても10万円というのは適切ではないかと思えます。

<鈴木(善)> 主幹LOMの山形で映像を残していないのでしょうか。もしそれをお借りできるのであればそれを使った方がいいと思うのですが、そちらはお金をかけて作られると思うので、同じJCの仲間だとしたらそこからお借りして使わせてもらう方向の方がより山形大会の魅力というものは伝わるのではないかと思います。

<豊崎> 宇都宮JCとして作ることで、PRとして繋げられるのではないかと考えております。

<中島(崇)> すみませんが映像を取り下げます。

<飯野> 映像を取り下げるといことは予算が変わるので、財審をやり直すということではないのでしょうか。

<中島(崇)> はい。

<木村(武)> 議案についてじゃないですが、少しずつ変わって大変だと思うのですね、豊崎委員長も。事務局長とそのラインでそれだけこころ変わるのはすごく委員長にとっても負担になると思います。連携がとれているのか、事務局長から専務ラインでしっかりみてきているのか、多分理事メンバーも時間を使い出ていると思います。そこまでの間に常任理事会などをおってきていると思うの

ですけど、連携をとってあげないとさっきの専務みたくずばっときってしまうのもそうなのですが、僕がもしその委員長だったら心折れると思うので、もう少しラインで連携をとってもらいたいかなと感じました。意見です。

<福田(智)>結局今の話だと映像は取りやめるのですか。

<中島(崇)>はい。

<福田(智)>そうすると映像ポスターの制作依頼とかも出していて、それも打ちきる話になってしまいます。契約書とかも読んでないのですが、その辺の対応も大丈夫なのでしょうか。その場しのぎで切っちゃうのは相手方もいるのでまずいと思いますのでよく確認をしてください。

<中島(崇)>はい話をします。

<高松> 幹事からもありましたが、予算も変われば財審も変わり、内容も変わってきます。日程も迫っているので、審議を取ろうとゆう事務方の皆さん、委員長の気持ちもよくわかるのですが、LOMの要である事務方であり、本来事業系の議案等々を統括しなくてはならない立場にいる事務方の議案をこれだけ無理に進めるのはどうなのかなと思います。すごく短時間で、多分1、2時間しか揉む時間もなかったでしょうから、本来だめかもしれませんが、電子理事会等々で今日ではなくて、日を改めて協議をし、審議をとられた方がよいのではないかと思います。今回はそれでいいのかもしれませんが、今後新しい理事がやっていくにあたり、そうゆう進め方はよろしくないのではないかと、守るべきものは守って、守らせるラインなので、そういう手法ではLOMの今後の運営におおいに支障をきたすと思います。如何でしょうか。

<中島(崇)>私へのお言葉だと思いますので、私の方からお答えさせていただきますが、高松副議長がおっしゃるとおりで、耳が痛いお話しだと思っております。いま考えるところで議案をしっかりと理解、納得をしていただけるような中身に作りかえまして、しかるべき議案のかたちにし、まず理事メーリングで配信をさせていただきまして、そこから協議、審議というかたちでご確認をし進めさせていただきたいと思います。本当に皆様の日中のお時間ですとか、そういったところを犠牲にしてしまう話しですので、本当に申しわけございませんが、そういったかたちでは是非進めさせていただきたいと思います。

<村上> 木村委員長がいつていましたが、ラインの確認ができていないというのがあるのですが、結局正副でも常任でも同じことをいわれていることが直っていません。それでこう突っ込まれて、追い込まれていつているのですよね。そこはしっかりとやってもらうしかありません。6月2日の例会ですから期限的にもすごく近いので、審議をとるならば臨時理事会をやるかたちになりますが、いずれにしても議案がしっかりしないとまた会議をやっても同じことになってしまうのでしっかりとやってください。

<中島(崇)>スケジュールでございますが、例会開催日というところのリミットも考えたところで大変申しわけありませんが、5月30日金曜日に行いたいと思います。栃木ブロック協議会の会員会議所が19時よりありますので、大変申しわけないのですがその前段の18時より臨時理事会をコンサーレにて行いたいと思います。

報-01 対外出向について

<中島(崇)>ご一読ください。

報-02 年間スケジュールについて

<中島(崇)>ご一読ください。

報-03 2014年度カレンダーについて

<中島(崇)>ご一読ください。

報-04 会費納入状況について

<廣田>ご一読ください。

報-05 特別会員入金状況について

<中島(崇)>ご一読ください。

報-06 特ビジター報告

<太城> 先日の公開委員会は間に合わなかったので前回までの例会になります。ご一読宜しくお願い致します。

<村上> 推薦人が抜けているので差し換えてください。趣味が酒飲みになっている人がいますので訂正してください。大竹君の推薦人も変更ください。

報-07 ビジター名簿について

<中島(崇)>ご一読ください。

報-08 5月例会 出欠報告について

<中島(崇)>ご一読ください。

報-09 推薦委員会設置について

<中島(崇)>推薦委員会が立ち上がりました。理事長の推薦人によります。

報-10 次回開催について

<中島(崇)>第3回臨時理事会 5月30日(金) 18:00～ コンセーレ
第6回理事会 6月25日(水) 19:00～ コンセーレ

16. 監事講評

<澤畑>

今日は何の日かという、エベレスト登頂の日になります。宇都宮の理事会も本日もてっぺんを超えてしまいました。はじめてですか。喜ばしくありません。活発な意見が出てよりよい事業をしようというのがこの理事会構成メンバーがやるべきことであり、すごくいいことだと思います。活発な意見を出してくださいと前々からいっていたのでいいのですけれど、今日の意見が悪いとかじゃなくて、実りがあるものだったのかなど、意見を出さなければいけない状態だったのではないのでしょうか。よくしようとかの次元ではないですよ。せっかとお忙しいなか山本顧問や福田直前がいらっしゃって、差し入れだってお前らお疲れになって意味で出したものではないと思います。これは一つひとつの議案、事務方のエアホースチームがどうのという次元じゃないですよ。ここにいる理事会構成メンバーが、ポジション、役割の中でだめだったというか、反省するところだと思います。別に人の議案がだめだったところではない。全員の責任。自覚してほしいところです。本当に半年が過ぎたところで、委員会によっては一つの事業を終えてホッとしているところや、次の事業に向けて忙しくなっていたり、大きな事業を抱えていたり様々だと思います。大変な時期だと思います。中だるみではないですけど、いいたくはないですが、たるんでいるというか疲れが出てくる時期だと思います。冒頭顧問がいらしたと思いますが、来ているメンバーはこの人たちだとか、来ていないのがこの人たちだとか把握してきているところだと思います。どの委員会もたるんではないかと思っていましたけど、この結果がたるみがあったのではないかと思います。どこかで気の緩みといいますか、自分だけになっていませんか。山本顧問の話にもあった150人の大組織が纏まりませんと話をしていましたが、僕も纏まらないと思います。しかし、今まで先輩たちはやってきて、私たちも纏めなきゃいけないのです。であればこの30年はもっと気合をもってやらなければならないのです。今日も理事意外だと総務委員会と渉外委員会に来ていただいておりますが、2会場も設営していただいてこんな時間になってしまって申しわけなかったと思います。本当に恥ずかしいです。各委員長さんたちは、委員会でメンバーにあだこうだといっているわけですがこのざまですよ。そこをもう少し反省してください。細かいところはいいませんが、よく考えてください。俺は突っ込まれていないから関係ないとかではありません。どのようなクールでとおってきたのかわかっていますよね。もう一度よく考えてください。太城議長のほうも資料を用意してきて、この時期になるとそれなりに安心してきちゃうのですよね。でも拡大からするとまだまだ足りていないという現状なのです。この委員会としてはこれからは入会したメンバーに教えていかなければいけませんね。そっちもやらなければなりません。12月のさよならの設営も教えていかなければなりません。各委員会が説明をしに来たりして、そのようなものも聞かせなければなりません。拡大というものに関してそこまで注力できない時期になってきました。だからこのメンバーがこれからは協力していった教育をしなければいけません。拡大は別に拡大するだけの委員会ではないのです。そういった新人教育が常用な委員会ですので理解してあげてください。太城議長も別にいいたくていっているわけではりません。いわなきゃいけなかったのです。その辺をわかってあげて、あと半年、もう1回考え直してください。いい機会だったのかもしれないが喜ばしいことではなかったと思います。

17. 閉会宣言

<中島(崇)>

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第5回 理事会議事録

議長：(専務理事) 中島 崇

議事録作成：総務委員会

議事録署名人：村 上 正 高
 黒 川 崇
 澤 畑 敦 史
 飯 野 貴 道